



二葉だより

令和6年6月28日 NO.4

墨田区立二葉小学校

校長 山崎 隆



ユーカリと個別最適な学び

校長 山崎 隆

オーストラリアからコアラが来日して40年がたちます。その歴史を紐解くと「1984年10月25日、東京都多摩動物公園、名古屋市東山動物園、鹿児島市平川動物公園に2頭ずつ到着した」とあります。当時私は大学生で、テレビや新聞などでも大きく取り上げられていた記憶があります。ちなみにお菓子のコアラのマーチはこの年に発売されました。

コアラが毎日食べるのはユーカリです。多摩動物公園のユーカリ栽培担当の徳田雪絵さんによると、コアラはどんなユーカリでも食べるわけではなく、何百とあるユーカリからコアラが食べるもの、そして一年中栽培できる品種を毎日欠かさず用意しなければならないことが本当に難しいのだそうです。また、無事に条件に合うユーカリを栽培できたとしても確実にコアラが食べる保証はなく、同じ品種でも畑や株ごとの違い、木の年数、コアラが好む新芽や若葉の有無などで食べる具合が変わってきます。そして、何よりもそれぞれのコアラ（多摩動物公園には現在5頭のコアラがいます）の好みがあります。コアラそれぞれのユーカリの好みはとてもシビアで、飼育員さんがいいと思って与えてもそのコアラの好みに合わないと見向きもしません。いったいどういうユーカリなら食べるのか、コアラたちの様子を飼育員と常によく観察して、栽培に生かしているとのことでした。

学校では子供たちが毎日のように学習しています。校内を回って授業の様子を見ると、学年や学級によって様々な学習活動が行われています。自分の考えを持つ・発表する・共有するという学習ひとつとっても次のような場面があります。発問に対する自分の考えをみんなに伝える、考えをノートやワークシートに書き込んでお互いに見合いながらさらに考えを膨らませていく、タブレット端末を使って調べたりまとめたりする、調べたことや考えをタブレットで提出して電子黒板で共有するなどです。他にも、自分の決めた課題に向かって1人でじっくり学習する場面もあれば、2人以上のグループで共通の課題に向かって学習を進める場面もあります。考えをまとめる際に使うことがある思考ツールも様々なものがあり、学習内容やまとめ方などによって子供が選択することもあります。まさに学習スタイルもコアラの好きなユーカリのように多様です。さらに学校教育においては、多様な学習スタイルを子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて指導方法や教材、学習時間等をより柔軟に設定していこうとする流れがあります。これはいわゆる「指導の個別化」で、令和3年の中央教育審議会答申「令和の日本型教育の構築を目指して」に示されています。この答申では、もう一つ、「学習の個性化」も示されていますが、これは教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を設定することによって、自分の学習が最適になるように子供自身で学習の進め方を調整することです。そして、「指導の個別化」と「学習の個性化」を合わせて「個別最適な学び」となります。

話は多摩動物公園のコアラに戻りますが、徳田さんによると、新鮮なユーカリを毎日欠かさず用意しなければならないことも大変な苦勞なのだそうです。動物園内だけでなく、園外の専属の農家と契約して和歌山や伊豆大島、八丈島など6か所の畑で栽培したユーカリを1週間ごとに採る畑や品種、量などを決めて仕入れているそうです。それぞれの畑の状態を確認しながらユーカリの採取計画を組んで、5頭のコアラがそれぞれ好むユーカリを一日たりとも切らさないようにしているのです。

我々教師は、子供たちの多様な学習に応じた学習内容や方法を準備し、時間配分や学習進度などをマネジメントすることも重要な役割です。徳田さんのユーカリ栽培計画のように、週ごとの指導計画（週案）や年間指導計画を立て、意図的・計画的な授業を展開しています。子供たちの学習の状況や習熟度、学習課題やめあてなど様々な要素を踏まえて計画の確認や修正・改善を行い、カリキュラムをデザインしています。さらに今年度は教科と教科、教科と総合的な学習の時間や特別の教科道徳、特別活動などの関連も明らかにしながらカリキュラムマネジメントを進めています。これらの取組を中心に、教育目標「自分で取り組む確かな学習」が子供たち一人一人の姿に表れる学校づくりを進めています。